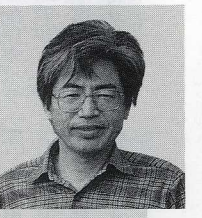

藤谷昌荘係長のご逝去を悼む

三月三十日午後九時をかなり過ぎていたと思われるが、突然鳴った電話の呼出し音。

何でいま時分と思いながら、耳にあてた受話器から聞こえた言葉は、「藤谷さんが事故で亡くなりました」「なにっ、いつ、どこで」。こんな言葉を発しただけだろう。

つい数時間前、翌日の予定を打ち合わせたばかりである。それほど衝撃的で、また、思考を分断させるに充分なことであった。まさか、との思いと、己の眼で確かめなければ信じられない、との思いで急行し、面会する。外傷もわずかで、呼びかければ眼をあけ、「疲れた。少し眠らせてくれ」と、答えそうな、安らかな寝顔である。

ただ、枕辺の灯明、線香が、帰らぬ人となったことを無情にも知らせてくれた。享年四十九歳。

省みるに、藤谷さんは、昭和四十二年本学教養部に奉職し、庶務部人事課を経て、同五十一年島根医科大学庶務課人事係長に昇任、任用係長、調査係長を歴任した後、同五十四年本学原爆放射能医学研究所庶務係長として帰学以後、庶務部企画調査課、庶務課、医学部附属病院、総合科学部の庶務係長を歴任、平成四年に工学部庶務係長の任に就かれた。

折しも、本学の懸案事項である大学院国際協力研究科の設置、同自然科学系研究科の再編、自己点検・評価の実施等々課題は山積し、そのうえ四月一日で工学部長の交替ということもあり、その事務処理は繁忙を極めていたが、持ち前のファイトで鋭意取り組み、その手腕にただ驚嘆するばかりでした。

また、「忙中閑あり」とばかり余暇を見つけ、「山へ、海へ」と幅広く行動するなど、その明朗で闊達（かったつ）な人柄は、上司、同僚、部下から厚い信頼と敬愛を一身に集めていました。さらに、ご家庭においても、奥様はもちろん、お嬢様がたへのご慈愛ぶりは、聞く者を思わずほほえませるものでした。

本当に惜しい人を失いました。ここに、謹んで哀悼の意を表し、生前のお姿を偲びながらご冥福をお祈りいたします。

（工学部庶務係　鳥羽隆憲（とば・たかのり））